

足立区立梅島小学校
学校長 江原 敦史 様

足立区立梅島小学校 開かれた学校づくり協議会

平成 30 年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

本年度は、創立 130 周年の年であり、周年行事があらゆる学校行事の取組みに現れていた。その結果として、継続的に取り組んでいる三つの重点目標は、江原校長先生の集大成として、各項目が充実し定着したものと評価できる。

- 学力向上に関しては、前年度に課題であった「児童が自分の考えを持ち、的確に文章表現する力を育てることの出来る授業」を念頭に置き取組んだ。
若手教員研修等により「足立スタンダード」に基づく授業の実施、「パワーアップタイム」「そだち指導」等による全児童の基礎・基本の理解を定着させる成果が見られた。
- 小中連携の充実に関しては、新学習指導要領を視野に入れた分科会編成により研究授業を実施し、「相互の教育内容と指導法に対する理解促進」「指導上の課題の共有」等を図ることができ、幼保小連携についても相互の参観を通じて理解を深めている。
- 安心安全な学校生活の充実に関しては、「あいさつキラキラ運動」や「地域清掃」等によって児童同士の良好な関係作りや地域と連携した取組を推進し、地域との交流がよりよい方向に進んでおり、評価できる。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- 保護者に対しては、児童の健やかな成長を目指すパートナーとして、児童の家庭での様子の情報発信を期待している。これは世間で問題となっている虐待、いじめ等の対策を速やかに行えることから期待したい。
- 地域に対しても、地域での児童の行い等について、情報の入手を期待している。

3. その他

現在の日本は、NIMBY (not in my backyard:日本での意味は、住む家の近くに子供の声がうるさい保育所は作らない) が台頭してきており、地域との繋がりが薄れてきている(理解の無い住民の増加)。

学校側では、「あいさつキラキラ運動」、地域のメンバーで構成されている「梅小キッズ」のスタッフについて、児童からも感謝させる気持ちを表わさせるなどの双方向性を持たせる機会を作っており、評価が出来る。今後も、双方向性のある地域との繋がりを大切にしてもらいたい。